

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名: Vivaおかざき！！

1. 事業の概要

事業名称	Viva！！つながる日本語教育事業4. 0 「外国人キーパーソン育成と基盤づくりを通した日本語教育啓発事業」
事業の目的	日本語教室は、地域住民や日本社会につながることで、外国人住民の生活をより豊かにする生きた知識やことばを学べる場になるとともに、住民同士の交流や、外国人住民を隣人としてサポートする地域の人材を育む場となり、多様な背景を持った人々が活躍できる地域づくりに貢献できると考えられる。そうした日本語教育の可能性を引き出すために、日本語教室が「日本人が外国人を支援する場」ではなく、地域を巻き込んだ「協働の場」となることを目指し、「外国人キーパーソン育成」と「その人材の地域への導入のための地域連携」に特化した取組を行う。協働する中で「生活者としての外国人」という視点の重要性と、地域連携によって広がる日本語教育の可能性を積極的に発信し、地域の日本語教育の意識を変えていくことを目指す。そして、ことばの学習だけではなく、外国人住民が住民として日本社会や地域との接点を持てる「つながる日本語教育」が本団体の事業の枠を越えて、岡崎市に広がっていくための基盤づくりを行う。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	本団体では平成27年度より日本語教育事業を本格化させ、本事業を活用した平成27～28年度、自主事業及び他の財源を活用した平成28～29年度と3年間を2つのフェーズに分け地域の日本語教育の活性化に取り組んできた。平成27年度は、市民参加型ワークショップを通じて外国人住民と日本人住民を含めて地域に必要な日本語教育のあり方を検討するとともに、「協働」や「つながる」をキーワードにセミナーも行い、日本語教育以外の分野や市外や県外からの参加を生み、広域的なつながり作りを行った。平成28～29年度は、地域の多文化共生のプラットフォーム（基盤）としての日本語教育の体制整備を目指し、本団体の日本語教育に関わるボランティアの養成講座の開催や、外国人住民のエンパワメントに重点を置いて、災害時に活躍できる人材育成のための日本語教室を実施するなど、「生活者としての外国人」に対する日本語教育」という視点を地域に提案してきた。 これまでの事業を通じ、地域で行われる日本語教育だからこそ、地域と協働し、住民の力を活用することが重要であると感じた。特に、外国人住民が地域との接点を持つことで、周りの役に立ちたいと自ら動き出す姿が見られ、日本語学習だけではなく、地域との関係づくりをサポートして、いく必要性があると感じた。しかしながら、岡崎市内の日本語教室で外国人住民のエンパワメントにつながる活動を行っているところはなく、地域の中で外国人住民と日本人住民が協働する機会が少ないのが現状である。 今までの日本語教育の形に囚われず、地域と連携した日本語教育のあり方を示し、外国人住民と同じ地域の一員として育成していく意識を地域に持ってもらう働きかけが必要だと考えられる。
本事業の対象とする空白地域の状況	—
事業内容の概要	本事業では、外国人住民と日本人住民が協働して学びの場をつくっていくことを通して、教室の枠を越えて地域全体で「生活者としての外国人」を支える日本語教育の可能性を示し、地域の日本語教育の意識を変えていくことを目指した。外国人住民は「常に支援される存在」ではなく、「共に助け合える存在」だと地域住民が実感できる機会を提供していくとともに、多様な背景を持った住民を理解して支える人材を地域に増やしていくことを目標に、具体的に下記の6つの取組を行った。 ●取組1 外国人キーパーソンの活用のための日本語・地域ネットワーク会議―防災編― 外国人住民も日本人住民もお互いを認め、「地域を支える人材」として活躍できる環境を整備するため、本事業では防災をテーマに設定し、日本語教育関係者だけでなく、自治会や防災ボランティア、外国人自助組織を含めて外国人キーパーソンの活用について検討する場を設けた。本事業の取組をより実践的な内容にするための情報収集や意見交換を行うと同時に、地域内のネットワークングを行った。 ●取組2 社会課題を日本語授業に結び付け、コースデザインできる日本語教育人材育成講座の運営 岡崎市では、市の事業や市民のボランティア活動として日本語教育が行われているが、外国人のエンパワメントにつながる日本語教育は行われておらず、「生活者としての外国人」がどんな課題を抱え、どんな支援が必要か考える講座も開催されていない。本事業では、外国人住民の背景や地域での生活といった視点を持ってコースデザインのできる日本語教育人材を育成するための講座を実施した。 日本語教室のプログラムづくりやコースデザインに関わっている人、もしくは今後関わりたいと思っている人を対象に、外国人住民に必要な日本語教育を行うために何が必要かワークショップ形式で学ぶ機会を提供した。ワークショップに加え、外国人住民と接しながら実践的なコースデザインの能力を育成するため、OJT (On the Job Training) の手法を取り入れて、日本語教室での実践活動も行った。また、外部講師を招いて外国人住民の現状や課題について学ぶ講座は一般に公開し、地域住民に外国人住民について理解を深める機会を提供した。 ●取組3 外国人キーパーソン育成日本語講座 本取組では、外国人住民の防災意識や日本語能力の向上を図るとともに、外国人住民と地域をつなぐためにどんなサポートができるか考え、地域との懸け橋となるキーパーソンを育成していくための講座を行った。 当団体では、平成27年より災害時に支援者になるための日本語教室を開催しているが、防災の知識やことばを学ぶことで、外国人住民が自信をつけていく様子が見られた。ただ、外国人住民が日本社会に参加するためには、日本語能力や知識に加えて、日本人住民が「外国人住民も地域を支え、活躍できる存在である」と認識して受け入れていくことが必要不可欠である。 そこで、「防災」という国籍に関係なく住民として直面する課題をテーマに、教室活動の中で外国人住民が必要な知識や日本語を地域住民と一緒に学ぶ活動を入れるだけでなく、取組1のネットワークを活用しながら、教室の枠を越えて、日本人住民と外国人住民が協働で取り組むモデルを地域に提示することを目的に講座を実施した。そして、本取組を通して災害が起きた時に外国人住民が著しく弱者とならないための支援者を地域に増やすと同時に、地域で外国人住民を孤立させないように、災害時だけでなく平時から地域と外国人住民をつなげる役割を担う人材の育成を目指した。 ●取組4 つながる日本語講座 単に「ことばを教えるだけの場」ではなく、「生活者として学びの場」であることが重要であると考え、外国人住民と日本人住民が相互理解を深め、地域とつながるための日本語講座を行った。 テーマ型の日本語教室として、外国人住民からニーズの高い生活に役立つ知識が習得できる内容（買い物、病院等）にすることで、日本語教室を通して学んだ日本語・生活知識が実生活につながっていることを大切にした教室づくりを目指した。 また、この教室自体が、外国人住民と日本人住民が互いを認め、支え合う場になるように、活動・会話補助のボランティアとして「日本語パートナー」を地域住民に募集し、一緒に学ぶ中で相互理解を深めた。そして、日本語能力の向上だけではなく、外国人住民の社会参加や自己実現が可能になることを目指し、地域とのつながりづくりを行うための活動を積極的に行った。 ●取組5 合宿型防災日本語講座 合宿型で防災に関する日本語と知識を学ぶことで、座学だけでは学べないコミュニケーションやことばの課題を実践の中で解消しながら、日本語能力と防災意識向上を目指した。取組3に参加した外国人住民が、学んだ日本語や知識を使う場になるとともに、地域住民に対して外国人住民が地域を支える重要な存在であることを発信する場とした。本取組では、取組1のネットワーク会議への参加を含め、自治会や地域住民にも広く協力を呼び掛け、地域と連携をして学びの場をつくっていくことを目標に実施した。同じ困難さを共有し、協働を実体験してもらうことで、地域住民に外国人住民を地域の一員として受け入れる意識を芽生えさせることを目指した。 ●取組6 取組の成果の発信及び地域の日本語教育への理解の促進 岡崎市には「生活者としての外国人」の日本語能力向上という観点に基づく日本語学習支援を行う日本語教室がなく、まだまだ外国人市民の地域参加の重要性が理解されにくい状況である。本事業の取組の成果を発信することで、住民として地域に「つながる」日本語教育についての理解促進を目指した。そのために、本事業の成果を報告する成果報告会を日本人市民も外国人市民も含めた一般向けに開くとともに、SNS・ブログを活用してタイムリーに広域への情報発信を行った。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会
[運営委員]

1	三矢 勝司	NPO法人岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長
2	土井 佳彦	NPO法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事
3	川崎 直子	愛知産業大学短期大学 准教授
4	各務 元浩	愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 室長補佐(多文化共生推進G班長)
5	太田 義男	岡崎市社会文化部国際課 課長
6	穴井 英之	岡崎市市長公室 防災危機課
7	米勢 治子	東海日本語ネットワーク
8	葛 冬梅	多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 代表
9	長尾 晴香	Vivaおかざき！！ 代表



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月22日 (火) 10:00～12:00	2時間	岡崎市図書館交流プラ ザリぶら102A会議室	三矢勝司、土井佳彦、川崎直子、 各務元浩、太田義男、穴井英之、 米勢治子、長尾晴香	議題 1. 目的・ねらいの確認 2. 実施計画について 検討内容 「Viva！！つながる日本語教育事業4. 0『外国人キーパーソン育成と基盤づくり を通した日本語教育啓発事業』」の事業計画に基づき、事業の目的、ネットワーク 会議、養成講座、日本語教室の運営の基本方針と流れ、成果報告会の計画につ いて説明が行われて、その内容についてより効果的に実施できるように意見交換が 行われた。
2	平成30年9月11日 (火) 14:00～16:00	2時間	岡崎市図書館交流プラザ りぶら201会議室	三矢勝司、土井佳彦、川崎直子、 大久保園子(各務元浩の代理)、太 田義男、穴井英之、米勢治子、葛 冬梅、長尾晴香	議題 1. 中間報告 2. 実施計画の修正 検討内容 取組2の養成講座、取組4の日本語教室の実施状況の報告を行い、これからの方向 性について意見交換を行った。特に、本事業の中心になる取組1のネットワーク会議 や取組4の日本語教室、取組5の合宿型日本語防災講座の連携方法などについて検 討をした。
3	平成31年2月12日 (火) 14:00～16:00	2時間	岡崎市図書館交流プラザ りぶら201会議室	三矢勝司、土井佳彦、川崎直子、 大久保園子(各務元浩の代理)、太 田義男、穴井英之、米勢治子、長 尾晴香	議題 1. 最終報告 2. 成果と課題検討 検討内容 これまでの実施内容の報告をし、これまでの成果と課題の整理を行った。それを踏 まえた上で、取組6の成果報告会について、より地域を巻き込んだ形にしていける 意見交換を行った。また今後への繋げ方、活かし方についても意見をもらった。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	●外国人住民を支えるネットワーク構築による連携強化 平成27年度～29年度の日本語教室では、行動・体験型の授業の中で、地域に出ていく活動や外部講師に協力を依頼することはあったが、点としての関わりだけで、地域の中で外国人住民を支えるためのネットワーク構築は行っていなかった。本事業では、日本語講座で扱う内容をより実践的なものにしていくことと、学んだ内容が地域で実際に機能することを目標に、自治会や市民ボランティア、外国人自助組織のネットワーキングを行った。それぞれの経験や知識を共有する場を設けるとともに、合宿型防災日本語講座で実際に協働する場を提供した。 ●外国人当事者の目線を大切に事業推進 これまでもブラジル・中国・フィリピンの外国人コミュニティとは協力体制を持ちながら事業を進めてきたが、今年度も外国人当事者の意見を反映しながら事業を進めることとした。特に外国人キーパーソンの育成については、彼らの意見やアドバイスをしっかり聞きながら進めた。また、多文化防災ネットワーク名古屋・愛知の代表の葛氏には、実際に支援する側として活動している立場から、外国人住民が地域の中で活躍していくためにどんな支援が必要なのかアドバイスをいただいた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	●多様な立場、広域な視点からのアドバイス、サポート体制 今年度の運営委員会では、平成27年度～28年度から運営委員をお願いしている地域日本語教育のプロフェッショナルである土井佳彦氏(NPO法人多文化共生リソースセンター東海 代表)と川崎直子氏(愛知産業大学短期大学 准教授)に加え、東海エリアで地域日本語教育に関わっている米勢治子氏(東海日本語ネットワーク)にも加わってもらい、より高い質の日本語教育の体制整備を目指した。岡崎市防災危機管理や国際課からは岡崎市の状況を踏まえたアドバイスをいただきながら、愛知県多文化共生推進室から広域な視点からの意見をもらった。また、岡崎市でまちづくりを行っている三矢勝司氏(NPO法人岡崎まち育てセンター・りた)や、外国人当事者としての自身の経験を生かして活動している葛冬梅氏(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋)には、多様な参加者を巻き込むためのアドバイスをいただきながら事業を進めることができた。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組の名称		外国人キーパーソン の活用のための日本語・地域ネットワーク会議ー防災編ー								
取組の目標		・防災をテーマに自治体や市民ボランティア、外国人自助組織のネットワーキングを行う。 ・外国人住民も日本人住民も同じ地域に暮らし、「地域を支える人材」として活躍できる環境を整備する。								
取組の内容		日本語教育関係者だけでなく、自治会や地域住民、外国人自助組織を含めて災害時の外国人キーパーソン の活用について検討する場を設けた。本事業の取組みをより実践的な内容にするための情報収集や意見交換を行うと同時に、外国人住民を支えるためのネットワークを地域内に構築することを目指した。 会議体1、「災害時に活躍する人材育成と地域連携会議」 【目的】 自治体や地域住民、防災ボランティアなどに協力いただき、災害時に活躍できる外国人人材がどのように地域とつながるべきかを議論し、外国人キーパーソン 養成日本語講座（取組3）・合宿型防災日本語講座（取組5）内容に反映させる。 【構成員】 ・外国人住民の多い自治会 会長（岡崎市六名学区） ・防災ボランティア・おかざき、防災リーダー会 ・防災士 ・岡崎ブラジル協会 ・岡崎中国人協会 ・岡崎フィリピンコミュニティ 【内容】 ・2時間×3回＝6時間 ・災害時の外国人支援について、自治体・防災ボランティア・外国人当事者それぞれの立場から感じる課題を出し、どのように外国人キーパーソン を活用できるか検討した。 ・外国人キーパーソン 養成日本語講座（取組3）・合宿型防災日本語講座（取組5）の終了後、内容をふりかえり、各立場よりフィードバックをいただいた。 会議体2、「災害時日本語人材ネットワーク会議」 【目的】 災害時に活躍できる外国人人材に必要な日本語能力が何かを議論し、その育成方法について議論した。また、本事業で日本語能力及び意識を高めた外国人キーパーソン が、災害時及び平時にどのように活躍できるかネットワーキングの方法を検討した。 【構成員】 ・外国人住民の多い自治会関係者 ・コミュニティ通訳員 ※岡崎市が認定する自治会関係者と住民の通訳を行う人材 【内容】 ・0.5時間×1回＝0.5時間								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		・日本語教室を運営の中で日本語学習者が社会とつながることができる教室活動をデザインする人材を育成した。 ・様々な出自の参加者をネットワーキングし、今後の日本語教育体制の整備を行った。 ・学習者を補助する日本語パートナーの言語スキルや多文化共生観を育成できるコーディネート能力を高め、日本語教室の質を向上させた。								
取組による日本語能力の向上		－								
参加対象者		・自治会関係者 ・防災ボランティア ・外国人住民 等				参加者数 (内 外国人数)		28人 (15人)		
広報及び募集方法		直接交渉または、岡崎市防災危機管理課・国際課より紹介 等								
開催時間数		総時間 6.5時間 (空白地域 時 間)				内訳 2時間 × 3回、 0.5時間×1回				
主な連携・協働先		岡崎市役所、自治会、防災ボランティア、外国人自助組織 等								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳 (人) ※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1		12						2	13

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年9月16日(日) 17:30～19:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	10	課題の洗い出し	それぞれの立場(行政、自治体、災害ボランティア、外国人当事者)で災害時の外国人支援について感じている課題を出し、本事業で取り組むべき内容を検討した。	ー	岡崎市国際課、防災課、自治会関係者、災害ボランティア、外国人コミュニティ
2	平成30年11月4日(日) 17:30～19:30	2	連尺学区市民ホーム	10	内容検討	前回の会議で出た要素を反映してプログラム案をつくり、実際のプログラムとして盛り込みべき点がないか確認した。当日の役割分担も決め、主体的に関わってもらうように協力を改めて依頼した。	ー	岡崎市国際課、防災課、自治会関係者、災害ボランティア、外国人コミュニティ
3	平成30年12月2日(日) 17:30～19:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	7	ふりかえり	取組5「合宿型防災日本語講座」を実施したことで得られた成果と課題を話し合った。特に今後、行政・自治会・市民が連携していくために何が必要か話し合った。	ー	自治会関係者、災害ボランティア、外国人コミュニティ
4	平成31年2月9日(土) 10:00～10:30	0.5	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	21	キーパーソンの役割について	取組3「支援に役立つ日本語教室」と取組5「合宿型防災日本語講座」の活動報告をし、キーパーソンとして災害時にどんな役割を担うべきかを話し合った。	ー	岡崎市のコミュニティ通訳員 自治会関係者

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年11月4日、第3回 平成30年12月2日】

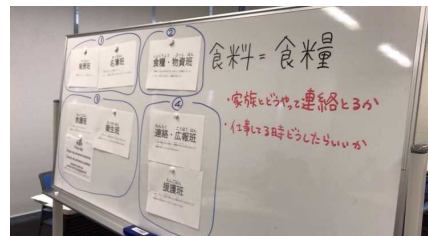
- ・行政(岡崎市国際課、防災課)、外国人自助組織(岡崎ブラジル協会、岡崎中国人協会、岡崎フィリピンコミュニティ)、防災ボランティア、自治会の関係者に集ってもらい、プログラム作りから関わってもらった。
- ・外国人と普段はあまり関わりのない防災ボランティアや自治会関係者に、外国人が抱える課題や背景を共有した。
- ・来年度以降にどのような取組みがあるといいかアイデアを出し合った。



○取組事例②

【第4回 平成31年2月9日】

- ・岡崎市国際課が認定している「コミュニティ通訳員」向けに「宿泊避難所訓練」の実施内容を報告した。
- ・外国人住民にもっと防災に関心を持ってもらい、地域の防災訓練に参加するためには何が必要か話し合った。
- ・自治会関係者と外国人住民のかけ橋となっているコミュニティ通訳員が、災害時に担うべき役割について話し合った。
- ・来年度以降に、コミュニティ通訳員に対して災害時の知識を身に付ける研修などを行えないか意見が出された。



(2) 目標の達成状況・成果

●自治体や市民ボランティア、外国人自助組織と連携して事業を実施できた

普段はなかなか会話をする機会がない自治会関係者と外国人自助組織がお互いの意見を伝えあったり、災害ボランティアを長年している市民ボランティアに外国人を含めた防災について考えてもらう場を持てたことは、大きな成果だったと思う。防災というテーマを考える時に、災害時だけでなく、普段からのつながりが重要であり、地域の多文化共生を考える上で大切なポイントがたくさん出てきたように感じた。

●事業全体の成果向上を目指せた

本事業を通して、取組3の日本語講座や取組5の合宿型防災日本語講座の実施内容も見直すことができたり、今まで関わりのなかった災害に取り組む市民ボランティアに取組6の成果報告会に参加をしてもらうなど、事業全体の成果向上につなげることができた。防災というテーマを設定したことで、防災をキーワードに関わってもらう日本人住民を増やすことができ、多文化共生や外国人住民について理解を深めてもらう機会にできた。

(3) 今後の改善点について

●協力だけでなく、当事者として巻き込む工夫

今回、行政や自治会、市民ボランティアなど多くの関係者に関わってもらったことは成果であったが、災害ボランティアの経験豊富な市民ボランティアからは「もっと自分達に頼ってもらいたかった」と嬉しいコメントをもらった。当団体の企画に協力をしてもらっている気持ちがあったが、もっと一緒に作り上げて体制にすべきだったと感じた。地域の多文化共生を進めるためにも、当事者意識を持って関わってくれる人を増やせるようにしていきたい。

●コミュニティ通訳員、災害時通訳ボランティアの活用

岡崎市では、外国人住民が集住している地域に「コミュニティ通訳員」を認定していたり、災害時に通訳ボランティアを行う市民を「災害時通訳ボランティア」として登録しているが、今回の事業にそこまで深く関わってもらうことができなかった。個人的に参加をした市民はいたが、今後は「コミュニティ通訳員」を対象にした取組や、「災害時通訳ボランティア」向け研修など、実際の役割を踏まえた取組みも行って必要性を感じた。

＜取組2＞

取組の名称		社会課題を日本語授業に結び付け、コースデザインできる日本語教育人材育成講座の運営									
取組の目標		・「生活者としての外国人」という視点を持ってコースデザインのできる日本語教育人材を育成する。 ・外国人住民の現状や課題について学び、外国人住民のエンパワメントの重要性を理解してもらう。 ・日本語教育に取り組む関係者の多文化共生・国際理解の意識向上を図る。									
取組の内容		外国人住民に必要な日本語教育を行うために何が必要かワークショップ形式で学ぶ機会を提供した。ワークショップに加え、外国人住民と接しながら実践的なコースデザインの能力を育成するため、OJT (On the Job Training) の手法を取り入れて取組4での実践活動も行った。また、外部講師を招いて外国人住民の現状や課題について学ぶ講座は一般に公開し、地域住民に外国人住民について理解を深める機会を提供した。 ●ワークショップ (第1回、2回、3回前半、4回) 「生活者としての外国人」のための日本語教育を行うために必要な基礎知識を学び、どのように活動を組立てていくべきかワークショップ形式で考えた。 【実施内容】 ・日本語教育と多文化共生 ・行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動設計 ・ボランティア、日本語講師の役割 ・日本語教室を通して社会へのつながり方とその是非 ・地域日本語教室が担う／担える役割とは何か ●実践活動 (第3回後半、5回、7回) 教室見学や教室での実践活動を通して、外国人住民と接しながら、どんな日本語教育が必要かを検討した。また、教案・活動案を実際につくって、お互いにアドバイスをする機会を持った。 【実施内容】 ・ボランティアと学習者、日本語講師の関わり ・コンセプトと教室活動の一貫性 ・教案、活動案づくり ●外部講師によるセミナー (第6回、8回、9回) 外国人住民の背景などに理解を深め、日本語教育が地域で果たせる役割を考えるコーディネーター的な視点の育成のためにセミナーを実施した。セミナーは一般公開として、一般市民にも参加を呼びかけた。 【実施内容】 ・「外国人と防災」講師：菊池哲佳氏(多文化社会コーディネーター／公益財団法人仙台観光国際協会) ・「外国にルーツを持つ子ども」講師：結城恵 (群馬大学) ・「場づくり」講師：中脇健児 (場とコトLAB)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・日本語教室を運営の中で日本語学習者が社会とつながることができる教室活動をデザインする人材を育成した。 ・様々な出自の参加者をネットワークングし、今後の日本語教育体制の整備を行った。 ・学習者を補助する日本語パートナーの言語スキルや多文化共生観を育成できるコーディネート能力を高め、日本語教室の質を向上させた。									
取組による日本語能力の向上		－									
参加対象者		日本語教育・多文化共生に関心のある市民					参加者数 (内 外国人数)		養成講座：14人 (1人) 一般参加者：23人 (0人)		
広報及び募集方法		岡崎市広報誌による募集、当団体HPでの募集、既存の日本語ボランティアへの声掛け 市内の大学や日本語教員養成機関への声掛け 等									
開催時間数		総時間 23時間 (空白地域 時間)			内訳 2時間×5回、4時間×1回、3時間×1回、6時間×1回						
主な連携・協働先		岡崎市防災課、国際課、日本赤十字社、既存の日本語教室、他地域の日本語教室、NPO 等									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳 (人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									1	36	
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年8月5日(日) 9:30～11:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	13	オリエンテーション	目的確認を確認し、多文化共生と日本語教育についてワークショップ形式で学んだ。その後、本講座で身に付けたいことや、どんな日本語教育を行っていきいか目標設定を行った。			講師： 長尾晴香 千葉月香	補助者：岡部真理子	
2	平成30年8月26日(日) 9:30～11:30	2	岡崎市民会館	8	活動のつくり方	行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動とは何かをワークショップ形式で学んだ。また、具体的に教室活動のつくり方のポイントも学んだ。			講師： 長尾晴香 千葉月香	-	

3	平成30年8月26日(日) 13:00～17:30	4	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	8	学習者との関わり方	取組4「病院に役立つ日本語教室」の見学を行い、ボランティアと学習者と日本語講師がどう関わるべきかを実践を通して考えてもらった。	講師: 長尾晴香 千葉月香	-
4	平成30年9月16日(日) 10:00～12:00	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	10	社会とつながるとは	地域における日本語教室の役割とは何か、社会とつながる日本語教室とは何かをワークショップ形式で学んだ。それを踏まえた上で、体験活動の盛り込み方についても学んだ。	講師: 長尾晴香 千葉月香	-
5	平成30年10月7日(日) 13:00～16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	9	コンセプトと教室活動 の一貫性	取組3「支援に役立つ日本語教室」を見学し、さまざまな日本語教室のあり方を学んだ。また、教室のコンセプトと活動の一貫性をどう持たせるかを見学をふりかえりながら考えた。	講師: 長尾晴香 千葉月香	-
6	平成30年10月28日(日) 10:00～12:00	2	岡崎市民会館	15	外国人と防災	防災という視点から外国人住民を考えるため外部講師によるセミナーを開催した。公開セミナーとして一般の方も参加してもらい、防災という視点で何ができるのかを考えた。	講師: 菊池哲佳	補助者:岡部真理子 長尾晴香
7	平成30年11月	一	各自で課題に 取組む	8	活動案づくり	これまでの内容を踏まえ、生活者としての外国人のために必要なテーマ設定を考え、Can-do statementsと活動案づくりを各自で行い、受講者で共有して学びを深めた。	一	一
8	平成30年12月9日(日) 14:00～16:00	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	18	外国にルーツを持つ 子ども	子どもという視点から外国人住民を考えるために外部講師によるセミナーを開催。第2弾の公開セミナーとして一般の方も参加し、日本語教育が子どもの含めて何ができるのかを考えた。	講師: 結城恵	補助者:長尾晴香
9	平成30年12月16日(日) 10:00～17:00	6	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	19	場づくり	多様な背景を持つ住民との場づくりについて、外部講師によるセミナーを開催。一般公開として、地域日本語教室が担う、担える役割を考え、改めてどんな場づくりを行うべきかを議論した。	講師: 中脇健児	補助者:岡部真理子 (AMのみ) 長尾晴香

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第2回、第3回 平成30年8月26日】

- ・行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動はどんなものか事例を紹介。
- ・ワークショップ形式で、行動体験型、Can-do statementsベースの活動のメリット、デメリットを話し合った。
- ・教室活動のポイントを学んだ上で、実際に日本語教室に参加。
- ・学習者との関わり方を考えてもらい、どんな活動をしていくと学びが深まるか考えた。



○取組事例②

【第8回 平成30年12月9日、第9回 平成30年12月16日】

- ・行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動の基本的な考え方、教室活動のつくり方を学んでもらった上で、学習者の背景を理解することを目的に外部講師によるワークショップを実施。
- ・教室内の学習者だけを見るのではなく、生活者としての外国人についての理解を深めた。
- ・学習者の背景を理解した上で、場づくりのポイントについても学び、日本語教室のコースデザインに活かせるポイントについて話し合った。



(2) 目標の達成状況・成果

●さまざまな地域の日本語教育人材の育成ができた

当団体は愛知県の岡崎市を中心に活動しているが、養成講座には愛知県内のさまざまな地域から参加をしてもらうことができた。行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動を行っている受講者は少なかったが、講座の受講後にそれぞれの地域で行動体験型の日本語教室づくりを行う動きにつなげることができた。

●行動体験型、Can-do statementsベースの教室活動についての理解促進

なぜ行動体験型にするのか、なぜCan-do statementsベースで教室活動をデザインしていくのか、学習者の背景や実際に教室活動に参加してもらって理解を深めてもらうことができた。また課題として活動案をつくってもらうことで、受講者自身が考えることで、ワークショップで学んだことを1つの形にしてアウトプットしてもらうことができた。

(3) 今後の改善点について

●実践の場を増やす

行動体験型の日本語教室について、外出すればいいと間違った理解をしていたり、なぜ必要なのか実感が持てない受講者もいたことから、実践の場を持つことが重要だと感じた。今回の養成講座でも日本語教室に参加をもらって実践の場を設けたが、実際に活動を学習者で行うなど、教室活動をデザインし、ファシリテートする立場での関わりを持つべきだと感じた。

●教室活動の目標設定の意義を伝える

ワークショップや課題として活動案をつくってもらう事をしてみたが、教室活動の目標設定が明確にできないままに活動をつくってしまうケースが見られた。当団体ではCan-do statementsをベースに活動をつくることで活動の目標設定を明確にするようにしているが、受講者が学習者の背景を理解し、どのような課題や困り事があるを伝えながら、目標設定を行っていく意義をより丁寧に伝える必要性を感じた。

＜取組3＞											
取組の名称		外国人キーパーソン育成日本語講座									
取組の目標		・地域と外国人住民の懸け橋となる外国人キーパーソンを養成する。 ・外国人住民自身が自分の強みを生かして活躍できるという自信を持つ。 ・日本人住民が「外国人住民は地域を支える存在」だという認識を持つ機会をつくる。									
□	取組の内容		外国人住民の防災意識や日本語能力の向上を図るとともに、外国人住民と地域をつなぐためにどんなサポートができるか考え、地域との懸け橋となるキーパーソンを育成していくための講座を行った。 ・対象：日本語による会話能力が十分あり、読み書きについてもある程度の能力を有する者（目安） ・日本語補助ボランティアも導入し、外国人住民の日本語理解度を高めるとともに、日本人住民が外国人住民の抱える課題を理解する機会とする。 ・外国人の困り事、ニーズを聞き出して、合宿型防災日本語講座（取組5）に反映するポイントを探る。 第1回：オリエンテーション ※9/30が台風の為、教室が開催できず、2回目にオリエンテーションを行った。 災害時の公的支援（罹災証明等） 【外部講師】岡崎市 防災課 第2回：過去から学ぶ災害時の外国人の課題について 支援者としての心構え 【外部講師】菊池 哲佳氏（多文化社会コーディネーター/公益財団法人仙台観光国際協会） 第3回：合宿型講座（取組5）で学びたいこと及び外国人住民の防災意識を高める企画アイディア出し （日本語によるディスカッション） 第4回：外国人住民ができること提案（日本語による作文及びプレゼンテーション） 第5回 ※11/17,18は合宿型防災講座（取組5）に参加した。 第6回：合宿型防災日本語講座のふりかえり（日本語による作文及びプレゼンテーション） 平時からのネットワークについて								
		空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		・日本語教育を通した、外国人住民の社会的なエンパワメント。 ・外国人住民自身が、自分の強みを生かして活躍できる自信をつけるとともに、地域の外国人住民のロールモデルになるような人材を育成した。 ・日本人住民が「外国人住民も地域を支え、活躍できる存在である」と認識できる機会をつくった。									
取組による日本語能力の向上		・学習者自身が社会の一員として社会参加できるような日本語能力の向上。 ・防災に関する専門知識や専門用語の習得。 ・自分の考えを日本語で説明する日本語能力の向上。									
参加対象者		外国人住民					参加者数 （内 外国人数）		10人（10人）		
広報及び募集方法		岡崎市広報に掲載、りぶら国際センターに募集チラシ掲載、HP／SNSによる広報 等									
開催時間数		総時間 10時間（空白地域 時間）				内訳 2時間 × 5回					
主な連携・協働先		岡崎市防災危機課、国際課、日本赤十字社、既存の日本語教室、他地域の日本語教室、NPO 等									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人） ※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	2		8								
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年10月7日(日) 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	4	オリエンテーション 公的な支援	本講座の目的と心構えを伝え、災害時の公的支援として罹災証明について岡崎市防災課の担当者に説明をもらった。参加者から質問をしたり、実際に申請書に記入をしてみた。		指導者：千葉月香 講師：防災課	補助者：長尾晴香		
2	平成30年10月28日(日) 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	5	災害時の外国人の課題と支援者の心構え	過去の事例から災害時の外国人の課題を学ぶため、外部講師として菊池哲佳氏に来てもらい、東日本大震災の経験を聞いた。そして、支援者として何が必要なのかを議論をした。		指導者：千葉月香 講師：菊池昭哲佳	補助者：岡部真理子		
3	平成30年11月4日(日) 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	6	外国人住民の防災意識を高めるには	取組5「合宿型防災日本語講座」で学びたいことを話した。また、外国人住民の防災意識を高める企画を考えてもらい、支援する側としてどんな働きかけができるのか考えた。		指導者：長尾 晴香	－		
4	平成30年11月11日(日) 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	7	外国人住民が支援者としてできること	具体的に決まった取組5「合宿型防災日本語講座」のプログラムを見ながら、外国人住民ができることを話した。また、日本人住民に理解してほしいことも意見としてまとめた。		指導者：千葉月香	－		
－	平成30年11月17日(土) 14:00～ 18日(日) 12:00	－	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	5	日本人住民と協働して避難所体験	※詳細は取組5に記載。 受講者には、学んだ内容を発揮する実践の場として、参加を呼びかけた。					

5	平成30年11月25日(日) 13:30～15:30	2	岡崎市図書館 交流プラザ りぶら	3	全体ふりかえり	これまでの講座と、取組5「合宿型防災日本語講座」のふりかえりを行った。また、平時からのネットワークについて、外国人住民と日本人住民がどうつながるべきかについて話し合った。	指導者:長 尾 晴香	一
---	-------------------------------	---	------------------------	---	---------	---	---------------	---

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年10月28日】

- ・外部講師の菊池哲佳氏から東日本大震災の時に外国人が困ったことや、それにどう対応したかについて体験談を聞いた。
- ・行政が発行しているハザードマップや避難所のマップなどを確認して、平時から災害に備えてどんなことができそうか学習者と日本語パートナーと話し合った。
- ・小さい子どもがいたり、妊娠している学習者は、特別な準備が必要であるなど、自分の状況に合わせて必要なことも話した。
- ・学んだ内容をふりかえりながら、支援者として周りの外国人にどんなことを伝えたいかを整理した。



○取組事例②

【第4回 平成30年11月11日】

- ・取組5「合宿型防災日本語講座」のプログラム内容を確認して、どの活動が楽しみか、どんなポイントを学びたいと思ったかを話した。
- ・岡崎市の避難所運営マニュアルに出ているグループの名前（配給、名簿など）を確認して、避難所はどんな事をしてくれるところなのか予想しながら自分だったら実際にどんな手伝いができそうなのか、今回の合宿型防災日本語講座でどのグループに入りたいか話し合った。
- ・今まで学んだことや、自分自身の気づきの中から、外国人住民が困りそうなことを書き出して、どう対応したらいいかアイデアを出した。
- ・日本人住民と外国人住民がお互いに助け合うためにどんなことができそうか話し合い、合宿型防災日本語講座でできそうなことを整理した。



(2) 目標の達成状況・成果

●支援者としての視点を育成

ただ知識や日本語を学ぶだけではなく、取組5「合宿型防災日本語講座」と連動した内容にすることで、身に付けた知識や日本語を実践できる場を用意できたことで、学習者のモチベーションを高めることができ、より積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。また、「〇〇について自分の周りの人に伝えたい」となどの発言があり、得た知識を周りに還元しようとする様子も見られた。

●日本人住民の理解促進

当教室には、日本語パートナーや講師、協力者として多くの日本人住民に関わってもらいながら日本語教室を運営することで、難しい防災の日本語を一所懸命に学ぶ外国人住民の姿を見てもらうことができ、災害時にも外国人住民と助け合っていくことができると理解してもらう機会にできた。今後も継続していきながら、外国人住民に関わりを持つ日本人住民を増やしていく必要はあるが、関わってもらった日本人の理解促進ができたことは成果であった。

(3) 今後の改善点について

●新たなキーパーソンの発掘

ブラジルや中国など、長く日本に暮らしている外国人住民の参加があったことはよかったが、最近急増しているベトナムやネパールなどの多様な国籍の人に参加をしてもらうことができなかった。十分に外国人住民に情報を届けられていない広報の課題もあるが、防災という硬いテーマであることで外国人住民が関心を持ちにくい可能性があるため、より多くの人が関心を持ってもらえるような工夫が必要であると感じた。

●地域との連携

町内会などの自治会の関係者のみなさんに、支援者になろうと努力している外国人住民の存在がいることをもっと理解してもらうためにも、取組5「合宿型防災日本語講座」のように地域と連携して日本語講座も開催していくようにすべきだと感じた。次回以降は、開催のスケジュールなども見直ししながら検討したい。

＜取組4＞											
取組の名称		つながる日本語講座									
取組の目標		・学習者自身が社会の一員として社会参加や自己実現が可能なテーマでの日本語教室の実施。 ・リアリティある日本語によるコミュニケーション能力の向上。 ・外国人住民と日本人住民が互いを認め、支え合う場になるように多文化共生への理解促進。									
取組の内容		単に「ことばを教えるだけの場」ではなく、「生活者として学びの場」であることが重要であると考え、以下の要素を大切に教室づくりを行った。 【教室の特徴】 ①実生活に役立つテーマ型学習 外国人住民からニーズの高い、生活に役立つ知識が習得できる内容（病院、買い物等）をテーマに設定する。教室活動が実生活につながるテーマにすることで、外国人住民が日本語を使ってできることを増やし、学習者自身が社会の一員として社会参加や自己実現につながることを目指した。 ②相互理解を深める 外国人住民と日本人住民が互いを認め、支え合う場になるように、日本語教室に日本語パートナーと呼ぶ活動・会話補助のためのボランティアを導入した。対話を中心とした日本語教室活動を通し、リアリティある日本語能力の習得を目指すとともに、参加者がそれぞれの背景を認め合い、一緒に学ぶ中で相互理解を深める教室づくりを行った。 ③地域との接点づくり 上記した活動・会話補助のボランティア「日本語パートナー」として地域住民に参加をしてもらうことに加え、教室活動でも地域との接点づくりを積極的に行った。具体的には、地域の病院で診察の体験をする機会をつくったり、地域の商店街で商品について質問する機会をつくるなど、外国人住民にとってリアリティある学習になるように地域に協力を求めた。外国人住民との活動を通して、地域に暮らす日本人住民に外国人住民が抱える課題や困り事について知ってもらう機会とした。 【実施概要】 1. 「生活に役立つ日本語教室」 テーマ：買い物 2時間×4回＝8時間 職場 3時間×3回＝9時間 2. 「病院に役立つ日本語教室」 歯医者 3時間×4回＝12時間 病院 3時間×3回＝9時間									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・外国人住民と日本人住民と一緒に学ぶ中で、お互いを認め、相互理解を深める ・日本語教育を通じた、外国人住民の社会的なエンパワメント ・教室内での学習を越えて、地域につながる機会をつくる									
取組による日本語能力の向上		・生活に密着した、暮らしに役立つ日本語の習得 ・学習者自身が社会の一員として社会参加や自己実現ができるような日本語能力の向上 ・医療など専門知識や専門用語が必要なテーマの場合は、スキルアップや日本語での知識習得も目的とした									
参加対象者		外国人住民、日本人住民（日本語パートナー）					参加者数 （内 外国人数）		45人（31人）		
広報及び募集方法		岡崎市広報に掲載、りぶら国際センターに募集チラシ掲載、HP／SNSによる広報 等									
開催時間数		総時間 38時間（空白地域 時間）					内訳 生活に役立つ日本語教室 2時間×4回、3時間×3回 病院に役立つ日本語教室 3時間×7回				
主な連携・協働先		既存の日本語教室、他地域の日本語教室、NPO 等									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	2		24	2				2	1	14	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1－1	平成30年6月17日（日） 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	7	自己紹介 スーパーのチラシ	普段どんなところで買い物をするか話し、スーパーのチラシを読んで分からないことばを確認した。また、ポイントカードの申込書を読んで、次回店員さんに聞きたいことなどを話し合った。			指導者： 長尾晴香	－	
1－2	平成30年6月24日（日） 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	4	スーパーの見学	スーパーに見学に行き、店員さんからポイントカードの説明を聞いて分からないことを質問した。その後、店内の表示や商品のラベルを見て、学んだことばや知識を学習者同士で共有した。			指導者： 長尾晴香	－	
1－3	平成30年7月1日（日） 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	7	和菓子屋さんの体験	地域の和菓子屋さんに行き、和菓子づくり見学した。保存方法や材料について質問をした。教室では、一般的な商品にあるラベルで、アレルギー表示についてのことばの意味を確認した。			指導者： 長尾晴香	－	
1－4	平成30年7月8日（日） 13:30～15:30	2	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	4	レシート 買い物まとめ	レシートの表記を見て、何が書いてあるか読んでみた。また、返品・返金の時に何と云えばいいかを学んだ。そして、今回を含めた4回で学んだ買い物に関することば、知識を振り返った。			指導者： 長尾晴香	－	

1-5	平成31年1月13日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	6	仕事の経験を話す	今まで自分がどんな仕事をしてきたのか話しました。日本での経験だけでなく、母国でしていた仕事や勉強してきたことを日本語を伝える練習をした。	指導者: 長尾晴香	—
1-6	平成31年1月20日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	8	職場のあいさつ	「お疲れ様です」や「お世話になります」などをいつ使うのが自然なのか、自分の体験などから話した。遅刻や休みたい時に電話をする時に何と言うか、伝えるべきポイントを確認した。	指導者: 長尾晴香	—
1-7	平成31年1月27日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	7	希望を伝える 職場の日本語まとめ	働く時に大切にしていることを参加者で話し合った。職場で自分の希望を伝える時にどんな言い方をするといいか、表現を学んだ。最後に、職場の日本語について学んだことを振り返った。	指導者: 長尾晴香	—
2-1	平成30年7月29日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	15	病院の種類	どんな症状の時にどの病院に行くのか、写真と日本語を見ながら話し合った。そして、日本の病院に行き時に不安に感じることはあるか、どう対応しているかについても参加者で話した。	指導者: 長尾晴香	—
2-2	平成30年8月5日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	8	歯の健康	歯みがきのポイントや歯周病について外部講師から講座をもらった。分からないことや疑問に思ったことを聞いて、自分の歯の健康のために何を気をつけるべきかを書き出した。	指導者: 千葉月香 講師: 岡崎市保健所	補助者: 岡部真理子
2-3	平成30年8月26日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	5	健康管理	前回の歯の健康について振り返った後、健康管理のために何をしているのかを話した。健康診断を受けているか、運動をしたり、普段の食生活でも気をつけているかなどを話し合った。	指導者: 千葉月香	—
2-4	平成30年9月2日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	9	ライフステージごとの 健康管理 健康管理のまとめ	岡崎市の健康おかげ21計画を読み、ライフステージに合わせた健康上の注意点(例:子どもの検診)などについて話した。最後にこの4回で学んだ健康に関することばを振り返った。	指導者: 千葉月香	—
2-5	平成31年1月13日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	6	症状を伝える	病院に行った時、いつから痛いのか、どこが痛いのかどう言うか参加者同士で話し合い、表現を学んだ。次回の講師の看護師に聞きたいことを話した。	指導者: 千葉月香	補助者: 大野旬子
2-6	平成31年1月20日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	5	病院で不安なこと	現役の看護師さんに来てもらって、病院を受診するときに気をつけること、知っておいてほしいことを話してもらった。学習者からも疑問に思っていることや不安に思っていることを聞いた。	指導者: 千葉月香 講師: 松田美穂 (看護師)	補助者: 大野旬子
2-7	平成31年1月27日(日) 13:30~16:30	3	岡崎市図書館交流プラザ りぶら	6	市民病院の見学	この地域で1番大きい岡崎市民病院に施設の見学に行った。病院の表示や、休日など緊急時の入口などを確認した。紹介状がないと受付のお金が高くなるなどの書類も確認した。	指導者: 千葉月香	補助者: 大野旬子

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第1～2回 平成30年6月24日】 スーパーの見学

- ・スーパーのチラシに載っている商品の名前や、「半額」「〇割引き」などのことを確認した後、自分はどれがほしいとなど話した。
- ・実際にスーパーに行って、案内表示や商品のラベルなどを見て、どんな違いがあるのかなどを日本語パートナーと一緒に話した。
- ・ポイントカードについて店員さんに説明してもらい、分からないことは質問をした上で、ほしい人は実際に申込書を書いてカードを発行した。
- ・「みりん」や「調理酒」は何が違うのかなど、普段なかなか聞けない日本の食材についての疑問などについても話した。



○取組事例②

【第2～2回 平成30年8月5日】 歯の健康

- ・岡崎市保健所に協力をお願いして、講師として歯科衛生士さんに来てもらって、歯の健康をどう保ったらいいかの話を聞いた。健康な歯と健康ではない歯の写真を見比べたりしながら、歯周病によってどんな問題が起きるのかを学んだ。
- ・歯みがきのポイントを聞いた後、学習者が疑問に思っていることを質問した。実際に歯ブラシを手に当てながら、どんな強さがいいかなどを確認した。
- ・日本と母国での歯の治療の考え方 (例: すぐ抜いてしまうのか、虫歯の治療をするのか) の違いなど、学習者と日本語パートナーと一緒に話をした。



(2) 目標の達成状況・成果

●地域との接点づくり

見学をさせてもらいに学習者と一緒に行ったり、講師として教室に来てもらって外国人住民と話すなど、地域との接点をつくることができた。地域にある和菓子屋さんに見学に行った際には、和菓子づくりという日本の伝統技術に触れるだけでなく、地域ならではのお菓子や、季節のお菓子を紹介してもらうなど、外国人住民が自分の地域に愛着が持てるようなキッカケをつくることができた。

●実生活につながるテーマ型学習への評価

日本語教室の最後に学習者にアンケートを実施してきたが、「毎日の生活で使える日本語が勉強できるのがいいです」など、参加してくれた学習者から高い満足度を示してもらえた。当団体が目指す、日本語ができるようになることで、外国人住民が日々の生活でできることが増えて自信が持てるようになることに、少しでも貢献できたのではないかと思います。

(3) 今後の改善点について

●医療機関の協力

外国人住民にどんなテーマの日本語教室の開催を希望するか聞いたところ、やはり病院についての日本語を学びたいというニーズは高く、講師として教室に来てもらうなど工夫はしてきたが、診察室を見学させてもらうなど、医療機関と協力しながら教室が開催できるといいと感じた。また、医療機関が感じている外国人対応の課題などを聞くなど、現場の課題を改善する動きにも繋げられるといいと思った。

●運営上の課題

当団体の運営上の課題として、通年で教室を開催するだけの人員も予算もなく、どうしても期間を決めて開催する形になってしまう。そのため、学習者が来たい時に来れるという状態にはできておらず、学習者も集まってくるが、広報の課題も感じる。すぐに解決方法は見つからないが、休みの期間はあっても構わないと思うが、年間を通して開催できるような運営体制にしていかなければ安定した学びの場が提供できないと感じた。

＜取組5＞										
取組の名称		合宿型防災日本語講座								
取組の目標		・外国人住民が防災に関する日本語と知識を実践的な体験を通して学ぶ。 ・日本人住民と外国人住民が協働する場をつくる、外国人住民を地域の一員として受け入れる意識を芽生えさせる。 ・災害という状況で、ことばや国籍の壁を越えて助け合う重要性を発信する。								
取組の内容		合宿型で防災に関する日本語と知識を学ぶことで、座学だけでは学べないコミュニケーションやことばの課題を実践の中で解消しながら、日本語能力と防災意識向上を目指す。また日本人住民と外国人住民とが協働して合宿型の講座を進めることで、ことばや国籍の壁を越えて協力して災害時に対応していく意識づくりを行うとともに、より具体的な支援のあり方を考える機会をつくった。 [内容] ・実際に避難所になる小学校体育館等の会場で実施し、避難所に近い環境で学ぶ ・活動・会話補助のボランティア「日本語パートナー」も一緒に活動し、日本語の学習をサポートする ・外国人住民が抱える課題を行政や自治会に知ってもらい機会をつくる ◆1日目(7時間) 14:00 ・オリエンテーション 14:00 ・自己紹介 14:30 ・避難所の概要説明 ・避難所のルール確認 ・避難所の運営班の紹介と役割決め 16:00 ・持参した防災バックの中身紹介と理由の説明 ・非常食(おやつ) 試食 16:30 ・六名小学校へ移動 17:00 ・避難所の立ち上げ訓練(受付、掲示板、救護所、配給、等) ・避難所で使うことば、意味の確認 ※随時行うが、基本的なことばを中心に 18:00 ・名簿記入 18:30 ・立ち上げ訓練で気づいたこと(グループごとまとめ) 19:00 ・夕食(非常食の紹介、表示ラベルの確認、調理方法の学習) ・非常食のことば、意味の確認 20:00 ・毛布ガウンのつくり方(赤十字) 20:30 ・防災クイズ(災害伝言ダイヤル) 21:00 ・1日目終了 ◆2日目(5時間) 07:00 ・起床 07:30 ・朝食(非常食) 08:00 ・トイレ講習(非常時のトイレ事情、実演) 08:30 ・応急処置の方法(毛布ガウン、AED)、ことばの学習 09:30 ・掲示物の整備(必要な内容を検討し、やさしい日本語や多言語で貼りだす) ・防災倉庫の見学 11:00 ・全体まとめ ・避難所で外国人住民が困りそうなポイントの解決方法を検討する 12:00 ・解散								
空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・日本語教育を通した、外国人住民の社会的なエンパワメント。 ・日本人住民と外国人住民が同じ困難さを共有し、ことばや国籍の壁を越えてどのように助け合っていくべきかを具体的に考える機会をつくった。 ・日本人住民が「外国人住民も地域を支え、活躍できる存在である」と認識できる機会をつくった。								
取組による日本語能力の向上		・学習者自身が社会の一員として社会参加できるような日本語能力の向上。 ・防災に関する専門知識や専門用語の習得。								
参加対象者		外国人住民、日本人住民				参加者数 (内 外国人数)		32人(12人)		
広報及び募集方法		岡崎市国際課、りぶら国際センターに募集チラシ掲載、HP／SNSによる広報 等								
開催時間数		総時間 12時間(空白地域 時間)				内訳 17日7時間、18日5時間				
主な連携・協働先		自治会、岡崎市防災危機管理課、日本赤十字社、あいち防災リーダー会西三河ブロック岡崎地区、災害ボランティア・おかざき 等								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2		7						2	20
※該当する場合のみ		アルゼンチン(1人)								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年11月17日(土) 14:00～21:00	7	六名学区市民ホーム、六名小学校 体育館	32	避難所を知って体験しよう	避難所のルール、役割分担について学び、災害時や避難所で使われることばを確認した。小学校の体育館に移動して、参加者全員で避難所を立ち上げた。どんな配置にするべきか、どんな表示があるといいか話しながら設置した。また、非常食や、赤十字の毛布ガウンの講座など、体育館で寝泊まりする上で役立つ知識を学んだ。最後に、気付いたことや、外国人住民が困りそうなポイントを話し合った。	指導者：長尾晴香 講師：日本赤十字社(毛布ガウン)	補助者：鈴木美帆、高木祐子 岸本サンドラ(16:00～)
2	平成30年11月18日(日) 7:00～12:00	5	六名小学校 体育館	24	もっと避難所を良くしよう	災害ボランティア・おかざきによる、非常時のトイレ事情の説明や、赤十字によるAED講習を受け、緊急時に周りを支援するために役立つ日本語や知識を学んだ。岡崎市が設置している防災倉庫を見学し、公的な支援としてどんな備えがあるかも知り、住民としてどんな備えが必要かを話した。また合宿型で避難所体験をしたことで気づいた外国人住民にとっての課題をまとめ、どんな改善ができそうか話し合った。	指導者：長尾晴香	補助者：鈴木美帆、高木祐子(～8:00) 岸本サンドラ(～9:00)

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

[1日目 平成30年11月17日] オリエンテーション

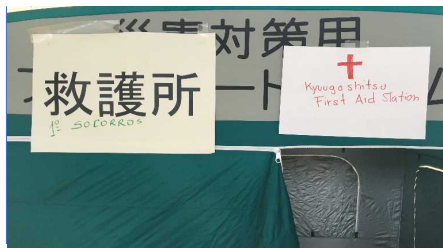
- ・日本人住民と外国人住民と一緒に、やさしい日本語で書かれた避難所のルール、役割分担についてのガイドブックを読んで、基本的な知識を確認した。
- ・災害時や避難所で使われる特別なことば(例:配給、救護所)を確認して、必要であれば母語が分かる学習者同士で教えあった。
- ・参加者に事前に防災バックを持ってきてもらうように依頼してあったので、自分が何が必要だと思って持ってきたかをグループ内で共有をした。家族に小さい子どもがいる人は粉ミルクやオムツがいる、高齢者がいる人は薬などがいるなど、それぞれの事情にあった準備が何を話し合った。
- ・避難所の立ち上げを行う!まえに、どんな配置にするべきか、どんな表示があったら分かりやすいかをグループで話し合っ、全体で共有した。



○取組事例②

[2日目 平成30年11月18日] 全体ふりかえり

- ・避難所を立ち上げ、宿泊してみ、気付いたことをグループごとに話し合っ、全体で共有した。今回は子どもの参加が少なかったが、子ども達が避難所では退屈してしまう場面があり、国籍だけでなく年代も多様な人がいる避難所での生活を快適にする視点が重要だという指摘があった。
- ・避難所内の表示について、多言語や絵・マークなどを加えて、外国人住民でも理解しやすいように工夫をした。
- ・防災倉庫の見学に行き、行政として準備できていることと、各自で準備しなければいけない事を確認した。そして、地震などの自然災害の対応について知識の少ない外国人住民にどうやって知ってもらったらいいかなど、アイデアを話し合った。



(2) 目標の達成状況・成果

●自治体・学校の協力を得られた

外国人住民も含めた防災に積極的な自治会の方に岡崎市から声をかけてもらうことで、今回の取り組みに協力いただくことができた。会場として小学校の体育館をお借りでき、実際に避難所になる体育館で実施できたことは大きな成果であった。隣の自治会の関係者も見学に来てくれるなど、今後は他の地域での外国人住民を含めた防災を考えていくなかに繋がるといいと感じた。

●外国人住民の積極的な参加

取組3の日本語教室や取組1のネットワーク会議などに外国人コミュニティも参加をしてもらったことで、外国人住民にも積極的に参加をしてもらうことができた。体育館に泊まるとはどういうことか想像できなかったと話す外国人住民から、「一泊だけでこんなに大変なら、ちゃんと家で準備をしようと思った」など実感を持って、災害に備える必要性を感じたようで、素晴らしい学びの機会になった。

(3) 今後の改善点について

●災害時の役割分担の整理

外国人住民が防災に関する日本語と知識を実践的な体験を通して学ぶことを目的に本取組を行ったが、当然のことながら行政や自治会と災害時の外国人対応について課題や対策を話し合うことが急務であると感じた。外国人住民の育成と同時に、災害時の外国人対応について行政や自治会と話し合う場をもっと設けていくことが重要であると感じた。

●子どもも巻き込んだ企画

せっかく小学校の体育館を会場にしたにも関わらず、小学生に参加をしてもらうことができなかった。企画内容を大人向けにし過ぎてしまったことが原因と思われるが、結婚や子どもが生まれることで地域とのつながりや防災の重要性に気付く外国人住民が多いことから、次回以降は子どもと一緒に親子で参加できる形にするなど、子どもも巻き込んだ企画にするなど、講座のやり方自体も考える必要があると感じた。

＜取組6＞											
取組の名称		取組の成果の発信及び地域の日本語教育への理解の促進									
取組の目標		・本事業の成果報告を行い、外国人住民の地域参加の重要性を伝える。 ・地域とつながる日本語教育への理解促進。									
取組の内容		岡崎市では、日本語学校・大学が留学生に対する日本語教育及び日本語教師養成を行っており、ボランティア団体及び行政機関が地域に在住・在勤する外国人市民に対して日本語教育を行っている。外国人市民に日本語を指導するのはボランティアが中心で、一部は熱心なボランティアもいるが、指導者が教えられる日本語を教える傾向にあり、「生活者としての外国人」の日本語能力向上という観点に基づく日本語学習支援を行う日本語教室はないのが現状である。また、日本語学習にのみ重点を置いているため、日本語教室における外国人市民の地域での対話と共生に繋がる活動はなく、そのために日本語教育に関わるボランティアを含め、日本人市民になかなか外国人市民の地域参加の重要性が理解されにくい状況である。本事業の取組の成果を発信することで、住民として地域に「つながる」日本語教育についての理解促進を目指した。 1. 成果報告会の実施 (3.5時間×1回) ①目的 本事業のねらいと成果を日本人住民も外国人住民も含めた一般向けに報告する機会をつくる。 ②内容 ポスターセッション ・外国人も含めた防災の取り組みを行っている行政、国際交流協会、NPOなどの6団体によるポスター発表を実施。 ・発表者：磐田国際交流協会、岡崎市国際課、多文化防災ネットワーク愛知・名古屋、西尾市国際交流協会 フィリピンガイサ (ポスター掲示のみ) 成果報告 ・本事業の実施概要の報告と、成果の確認。 基調講演 「防災×日本語教育×地域」 ・災害時に日本語教室が果たせる役割や、平時のつながりの重要性について、熊本地震での体験(をお話(はなし)いただき、今後の活動のヒントを学んだ。 ・講師：村上百合香(熊本市国際交流振興事業団) 照喜名かおり(日本語教室の外国人リーダー) ワークショップ ・感じたことや、取り入れたいポイントなどをグループで共有 2. ブログ及びSNS、記録映像を活用した外部への情報発信 ・ブログ及びSNSを活用して、取組の内容をタイムリーに広域に情報発信 ・新聞掲載3回 (9月21日 中日新聞西三河版、11月20日 中日新聞 西三河版、2月6日 日本経済新聞 全国版) ・テレビ取材1回 (3月3日 NHK)									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・一般の地域住民への日本語教育や外国人住民の地域参加の重要性についての理解促進。 ・本事業の成果を踏まえて、今後の日本語教育の体制整備に活用する要素の共有。									
取組による日本語能力の向上		－									
参加対象者		一般市民、行政関係者、日本語教育関係者、学生 等						参加者数 (内 外国人数)		85人(23人)	
広報及び募集方法		当団体HP／SNSでの募、岡崎市災害通訳ボランティア、コミュニティ通訳への呼びかけ、関係者への声掛け 等									
開催時間数		総時間 3時間 (空白地域 時間)				内訳 3時間 × 1回					
主な連携・協働先		岡崎市役所、既存の日本語教室、他地域の日本語教室、NPO、大学 等									
受講者の出身 (ルート)・国別内訳 (人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	3		10	4			1	1	4	62	
※該当する場合のみ		アルゼンチン (1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成31年3月3日(日) 13:00～16:00	3	Camping Office osoto	85	防災×外国人×地域	行政、国際交流協会、NPOなどの6団体による外国人も含めた防災の取組みについてのポスター発表を行った。その後、当団体の事業報告を行い、さまざまな立場から外国人住民を巻き込んでいく可能性を考えた。そして基調講演として、熊本地震の体験から、日本語教室が災害時に果たした役割や、地域とのつながりの重要性について話を伺った。最後は、これまでの話から感じたことや、取り入れたいポイントなどをグループで共有する時間とした。		講師： 村上百合香 照喜名桂芬	発表者：葛冬梅 高木祐子 鈴木ゆみ 譚俊偉 太田義男 補助者：松田美穂 田呂丸絵美		

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【前半 平成31年3月3日】ポスター発表

- ・岡崎市国際課、岡山県総社市、(一社)磐田国際交流協会、多文化防災ネットワーク愛知・名古屋、多文化共生サポートAdagio、NPO法人フィリピンナガイサの行政、国際交流協会、NPOなど6団体が、さまざまな立場での外国人を含めた防災の取組みを発表してもらった。
- ・15分のセッションを2回として、参加者には聞きたい団体を選んでもらい、発表後に簡単に質疑の時間も設けた。
- ・日本人が外国人を支援するという一方的なものではなく、外国人住民と共に協働する形はどんなものがあるかを参加者に考えてもらうきっかけ作りを目指した。
- ・発表者には外国人当事者もあり、外国人の立場からの意見や感想なども共有してもらった。



○取組事例②

【後半 平成31年3月3日】基調講演

- ・熊本地震の体験から、日本語教室が災害時に果たした役割や、地域とのつながりの重要性について具体的な事例をもって説明いただいた。
- ・最初に、日本語教室のコーディネーターを担当されている一般社団法人 熊本市国際交流振興事業団の村上氏から、教室の概要や、災害時にどんな対応を行ったか、災害時の体験をふまえて現在どんな取組を行っているのか説明をいただいた。
- ・次に、日本語教室の学習者リーダーの照喜名氏から、外国人当事者として困ったことや、学習者リーダーという立場から周りとの関わり方を持ったかなど話を伺った。また、分かりにくい日本語の表現など、外国人当事者だからこそその視点からの話もしていただいた。
- ・外国人住民が日本語や知識を学べる機会を提供するというだけでなく、地域で助け合える関係を築くなど、普段から取組むべきことを示唆いただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

●多様な参加者

成果報告会に、日本語教室や国際交流協会のボランティアなどはもちろん、地域の自治会関係者や、災害ボランティアなど多様な参加者に集まっていただき、さまざまな立場から外国人住民を含めた地域づくりの重要性や、日本語教育を含めた外国人住民のエンパワーメントについて考える機会にできたことは大きな成果だった。参加者からも外国人住民を含めてさまざまな人の参加があったことを高く評価いただいた。

●情報発信

自団体のHPやSNS等での情報発信に加え、新聞掲載3回(9月21日 中日新聞西三河版、11月20日 中日新聞 西三河版、2月6日 日本経済新聞 全国版)、テレビ取材1回(3月3日 NHK)とメディアにも多く取り上げていただけたことで、地域の住民に外国人住民が抱える日本語や災害時の困難を知っていただき一般の地域住民の日本語教育や外国人住民の地域参加の重要性についての理解促進を図ることができた。

(3) 今後の改善点について

●参加者同士の交流の場づくり

上記で、多様な参加者がいたことを成果としてあげたが、参加者からは「もっと話をする時間がほしかった」という声が多かった。参加者には、質疑や感じたことを共有する時間などは多少は設定したものの、せっかく集まった多様な参加者に交流してもらい、今後の活動に繋げる繋がりをつくることができれば、もっと意味のある場にできたと感じた。当団体の事業報告や、他団体の取組を知ってもらうことも重要であるが、今後の地域の日本語教育や外国人住民との協働など、次に繋がる提案ができる場を今後はつくっていききたいと感じた。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本語教室は、地域住民や日本社会につながることで、外国人住民の生活をより豊かにする生きた知識やことばを学べる場になるとともに、住民同士の交流や、外国人住民を隣人としてサポートする地域の人材を育む場となり、多様な背景を持った人々が活躍できる地域づくりに貢献できると考えられる。そうした日本語教育の可能性を引き出すために、日本語教室が「日本人が外国人を支援する場」ではなく、地域を巻き込んだ「協働の場」となることを目指し、「外国人キーパーソン育成」と「その人材の地域への導入のための地域連携」に特化した取組を行う。協働する中で「生活者としての外国人」という視点の重要性と、地域連携によって広がる日本語教育の可能性を積極的に発信し、地域の日本語教育の意識を変えていくことを目指す。そして、ことばの学習だけではない、外国人住民が住民として日本社会や地域との接点を持てる「つながる日本語教育」が本団体の事業の枠を越えて、岡崎市に広がっていくための基盤づくりを行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

●人材育成

教室の中だけで終わるのではなく、外国人が同じ住民として地域と接点を持てるような「つながる日本語教育」が広がる基盤づくりを目的に、地域の外国人住民について理解して日本語教育に関わるコーディネーターの育成や、地域と外国人住民のかけ橋になる外国人キーパーソンの育成など、人材育成に力を入れた。今後も継続して育成をしていく必要はあるが、積極的に協力してくれる人材の輪を広げることができた。

●地域住民の意識変革

本事業では、取組1で「防災」という切り口で地域とのネットワーク会議を行ったり、取組5で合宿型防災日本語講座を実施するなど、これまで以上に地域住民に協力してもらいながら事業を進めた。結果、調整が難しいこともあったが、地域住民の外国人住民に対する意識の変化や、普段の生活や活動の中で外国人住民を意識してもらうきっかけづくりとなった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

●外国人を含めた地域づくりの視点

日本語教育事業を地域と連携して行うことで、外国人も含めた地域づくりを行っていくという視点、そして改めて日本語教育の重要性を実感してもらうことができた。成果報告会にも、これまで当団体のイベントに参加したこともなく、既存のものでは参加しないような属性の人にも参加していただくことができた。

●外国人住民のエンパワメント

地域の関係者と協働しながら事業を進めることで、外国人住民自身ももっと地域を支えたいという気持ちを強く持ってくれるようになったと感じた。特に外国人キーパーソンのみなさんには、自分の周りの外国人住民にも参加を呼びかけるなど、周囲への働きかけも行ってくれた。1人ではがんばろうと思えなくても、日本人住民と一緒に取組むことで、外国人住民がより生き生きと活躍できる場をつくることができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

●SNSや新聞による情報発信

これまでと同じ様に、タイムリーな情報発信はブログやSNSを使って地域住民や周りに発信しながら、当団体のブログやSNSを見ないような地域住民には新聞等に取材いただいて、積極的に取組みを紹介するようにした。

●成果報告会の開催

当事業の成果を改めて整理し、共有する場として「成果報告会」を開催した。それぞれの事業に関わっている人も全体像は見えていないので、事業全体の概要や目的を説明する場にするるとともに、成果を多くの人と共有できる場になった。会場からもっと時間がほしかったと言われる程、参加者同士の交流も生まれ、「つながる日本語教育」とはどういうことか、少し体験いただけたのではないと思う。

(5) 改善点、今後の課題について

●計画と準備

単年度の事業として行う問題点として、地域の関係者と連携を図っていくには、スケジュール的に難しい点が多くあった。すでに予定や予算が決まっていて、協働が難しい部分もあり、継続的な関係づくりと事業を進めていく体制が必要だと感じた。

●新しい外国人住民の巻き込み

長年暮らしている外国人住民は、当団体が目指す「つながる日本語教育」に関心を持ってくれる傾向にあるが、来日したばかりや、若い世代はあまり関心を持ってもらうことができなかった。とはいえ、地域とつながりながら日本語や知識をつけていく場を提供していくことは重要であり、テーマ設定を若い世代も関心を持ちやすいものにするなど、巻き込んでいく工夫が必要だと感じた。

(6) その他参考資料

・取組6成果報告会チラシ